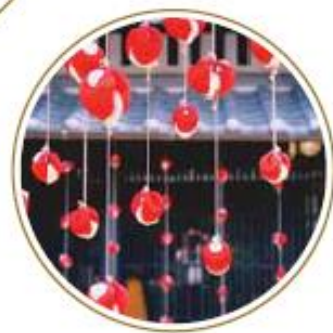


NARA CITY



奈良市環境基本計画 (改訂版) 中間見直し

概要版



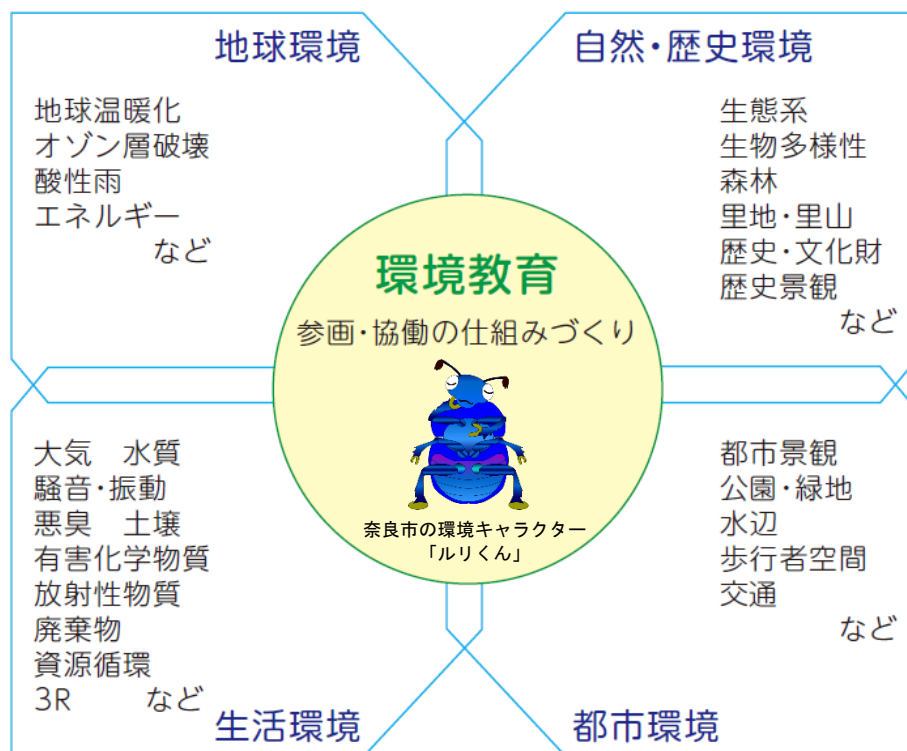
計画の中間見直しについて

本市では、奈良市環境基本条例に基づき、環境の保全と創造に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、平成24年3月に奈良市環境基本計画（改訂版）を策定しました。奈良市環境基本計画（改訂版）では、目標年度を平成33年度とし、3～5年サイクルで見直すこととしています。策定から5年が経過し、市を取り巻く環境情勢や社会経済情勢が大きく変化していることや、奈良市第4次総合計画後期基本計画が策定されたことから、計画期間の後半の5年間を見据え、中間年度となる平成28年度に計画の見直しに取り組むことといたしました。

なお計画の見直しにあたっては、本市の各種政策や分野別計画、県・国の関連計画との整合性を図り、第4次総合計画後期計画を環境面から総合的・体系的に推進する計画を描くものとしします。

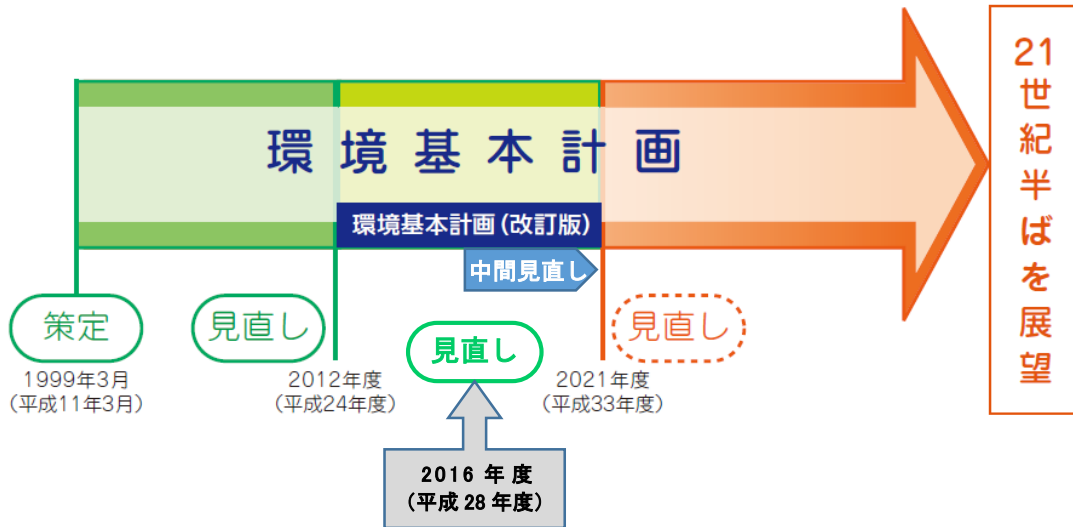
環境の範囲

私たちを取り巻く環境は、本市固有の環境から広域的な環境、さらに、地球温暖化問題を始めとした地球環境まで幅広く、それぞれが複雑に関連していることから、「環境基本計画（改訂版）中間見直し」においても従来と同様に対象とする環境の範囲を以下のように分類します。



計画の期間

見直し後の計画期間は、平成 29 年度から当初計画終了年度である平成 33 年度の 5 年間とします。



「奈良市環境基本計画（改訂版）」の継承

奈良市の目指す望ましい環境像と分野別将来像やリーディングプロジェクト等の基本部分は継承します。

歴史と自然に恵まれ、環境と対話する 安全・安心なまち・奈良

地球温暖化対策	自然環境	歴史環境	生活環境	資源循環	都市環境
「古都奈良で目指す低炭素社会」	「全ての命を大切にし、自然と共生するまち」	「世界に誇れる、歴史・文化を活かし、未来へ引き継ぐまち」	「きれいな水と空気・緑に囲まれた、健康で快適な生活環境の実現」	「『もったいない』の心を大切に、ごみゼロを目指した循環型都市の実現」	「市街地と森林・農業地域の良さを活かし、誰もがいつまでも安全で安心して暮らせるまち」
環境教育 「未来を見据え、地域を動かす環境教育」					

環境基本計画（改訂版）分野別施策のこれまでの評価

「環境基本計画」（改訂版）では、望ましい環境像「歴史と自然に恵まれ、環境と対話する安全・安心なまち・奈良」を目指して7つの分野別将来像と18項目の基本施策を設定し、基本施策の中に、それらを実現するための具体的な施策として39項目の施策が挙げられています。

計画の評価に当たっては、それぞれの分野別将来像の実現に向けた参考となる指標及び目標値が32項目設定されており、それぞれについて担当課の自己評価により4年間（平成24年度～平成27年度）の取組状況を環境基本計画（改訂版）策定時の現状値から目標値にどれくらい近づいたかを進捗率で評価し、その評価をふまえて目標値の達成見込をAからDの4段階で評価しました。

- A：計画に記載されている目標を既に達成済。
- B：計画に記載されている目標を目標年度までに達成できる見込み。
- C：計画に記載されている目標を目標年度までに達成できない可能性がある。
- D：計画に記載されている目標を目標年度までに達成できない見込み。

基本施策ごとの達成見込については、以下のとおりです。

分野	指標数	総合評価			
		A	B	C	D
地球温暖化対策	4	-	2	1	1
		-	50%	25%	25%
自然環境	5	-	1	4	-
		-	20%	80%	-
歴史環境	3	-	2	1	-
		-	67%	33%	-
生活環境	4	2	1	1	-
		50%	25%	25%	-
資源循環	5	-	4	1	-
		-	80%	20%	-
都市環境	8	1	2	2	3
		13%	25%	25%	38%
環境教育	2	-	-	2	-
		-	-	100%	-

※総括評価を行っていない指標については含めておりません。

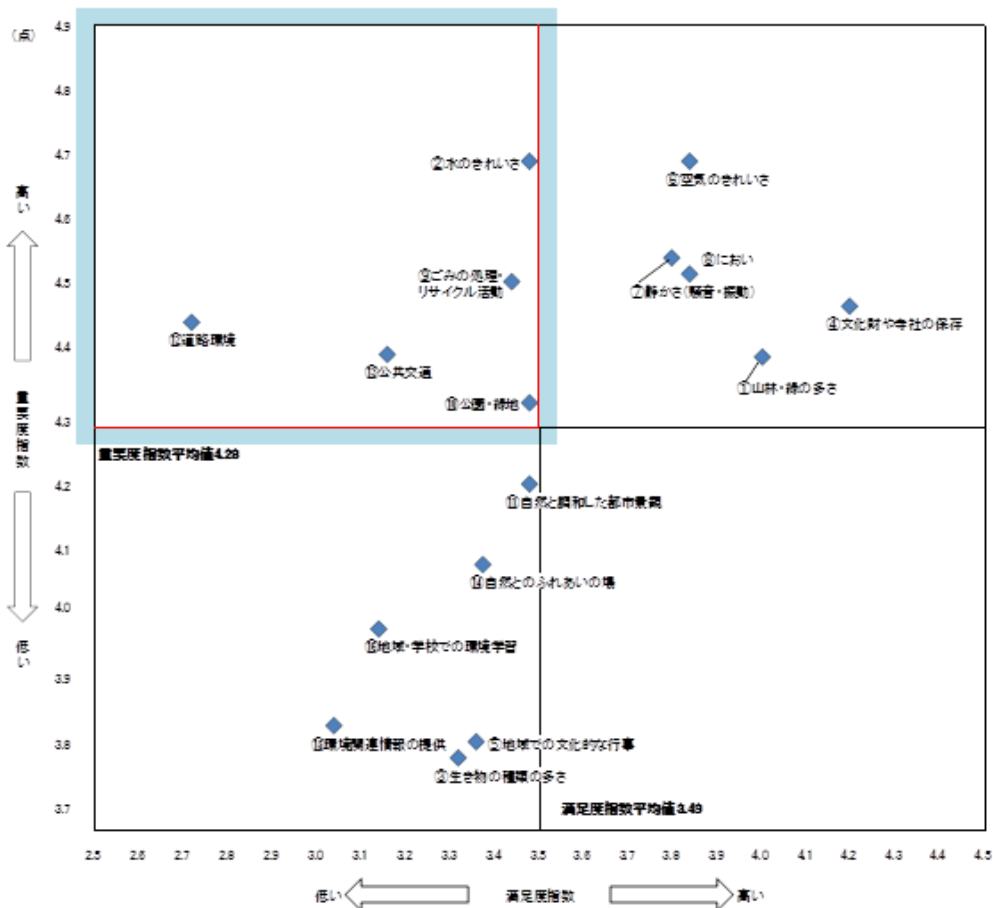
奈良市の環境に対する満足度と重要度について

「環境基本計画（改訂版）」の中間見直しにあたって、平成28年度に、市民（18歳以上の男女1,500人を無作為抽出）、事業所（奈良市内に所在する事業所500社を無作為抽出）、中学生（奈良市内の各ゾーンに位置する市立中学校を通して中学生200人を抽出）を対象にアンケート調査を実施しました。

調査対象者	配布数	有効回収数	有効回収率
市民	1,500	739 ^{※1}	49.2%
事業所	500	206	41.2%
中学生	200	140	70.0%

※¹Webアンケートの回答数6件を含みます。

奈良市の環境に対する満足度と重要度については、以下のとおりです。



満足度指数^{※2}が平均値（3.49）を下回り、重要度指数^{※3}が平均値（4.28）を上回る象限に該当する項目が「今後、積極的に対応を図るべき取組」と考えられます。

※²満足度指数と※³重要度指数：アンケート回答者の満足度と重要度の評価をそれぞれ得点化（今回は5点満点）し、加重平均して算出した値。

リーディングプロジェクト

望ましい環境像の実現に向けた分野別施策の中から、特に重要度が高く優先的に展開していくべき施策で波及効果が期待できるものを、リーディングプロジェクトとして位置付けました。市民、事業者、市(行政)の各主体が協働して取り組むことにより各プロジェクト間の連携や相乗的効果が期待されます。

省エネ・創エネプロジェクト

●省 CO₂ 高効率機器や再生可能エネルギーの導入促進

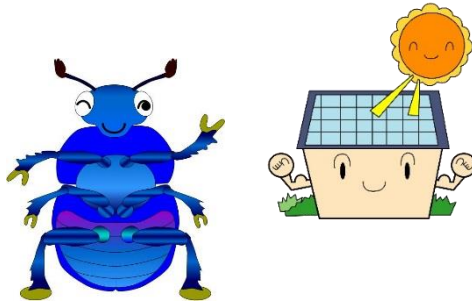
省 CO₂ 高効率機器や再生可能エネルギーの導入促進、環境家計簿を使った「見える化」による効果的な温室効果ガスの排出削減の啓発・普及に取り組みます。

●家庭部門の温室効果ガス排出量削減支援

市民の省エネへの自主的取組を情報提供や環境家計簿などにより支援する仕組みを作ります。

●し尿・浄化槽汚泥のメタン発酵による堆肥化とバイオガスの利用

し尿処理後の汚泥と給食残さを利用し、堆肥へとリサイクルします。また、処理工程で発生したバイオガスを回収し、施設内の燃料として利用します。



太陽電池付き街路灯
(なら 100 年会館)



資源循環プロジェクト

●一般廃棄物の発生抑制の推進

「もったいない」の心を大切に、ごみの減量及びリサイクルによる資源の循環的利用を進めます。

●レジ袋削減の推進

市民や事業者と連携し、レジ袋など容器包装の大幅削減を推進します。



交通プロジェクト

●マイカーから公共交通への転換促進

マイカー利用を抑制し、マイカーから公共交通への転換を促進するため、公共交通ネットワークの充実・強化を図ります。

●世界遺産周辺への自動車流入規制

歴史的文化遺産を保全するとともに、歩いて楽しむ町づくりを推進するため、自動車の流入規制を図ります。

●自転車の利用促進

自転車の利便性と安全性を確保し、自転車利用を促進するため、自転車利用ネットワーク環境の充実や自転車駐車場の整備を図ります。

●低公害車の普及促進

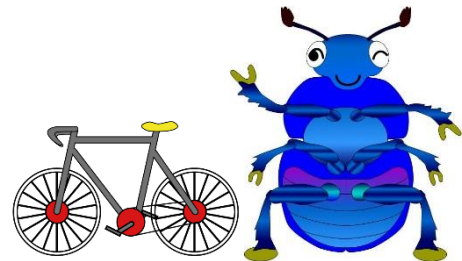
騒音・排気ガスの少ない環境をつくるため、自動車の低公害車への転換を促進します。

●エコドライブの推進

ふんわりアクセルやアイドリング・ストップなど、エコドライブについて推進を図ります。

●交通マナーの向上

歩行者や自転車に安全・安心なまちづくりを推進するため、交通マナーの向上に向けた啓発・推進を図ります。



パークアンドサイクルライド

地産地消プロジェクト

●森林・農業地域と市街地の連携による農林業の活性化

農林業従業者の育成に取り組むとともに、森林・農業地域と市街地との交流の機会を増やすことにより、農林業の活性化・振興を図ります。

●地産地消の推進

地元でとれた農産物を地元で消費する地産地消を推進し、生産者と消費者の交流を促進するとともに、農産物の輸送による環境負荷を低減します。

水と緑・景観プロジェクト

●水辺環境の保全と創造

河川環境の保全に配慮し、自然景観に調和した多自然型工法による川づくりを推進します。水環境意識の向上を図るため、市民・事業者の参画による水辺環境の保全活動を支援します。

●都市の緑の保全と創造

公園の緑や街路樹の適切な管理ができる体制をつくります。

●古都の景観の保全と創造

歴史的文化遺産と自然環境を活かした緑豊かな景観の保全を、市民、事業者、市（行政）の協働により進めます。



秋篠川河川整備

環境教育プロジェクト

●環境教育推進のための組織づくり

地域、市民団体、事業者、学校、市（行政）などの協働により、環境教育を一体的かつ効率的に推進するための核となる組織をつくります。

●環境教育プログラムの充実と人材育成

地域資源を活かした環境教育プログラムを作成し、定期的な実践活用を行います。また、同時に環境プログラムの実践を指導する地域の人材を養成します。

●環境教育事業の評価

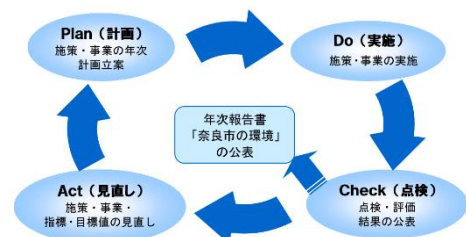
環境教育施策の実効性を高めるため、進捗状況の確認及び事業評価を行います。



環境講座「ECO キッズ！ならの子ども」
(右京小学校)

計画の進行管理と推進体制

「環境基本計画（改訂版）中間見直し」を総合的かつ計画的に推進し、望ましい環境像を実現させるために、市民、事業者、市（行政）がそれぞれの役割に基づいて主体的に行動を実践し、連携・協働する仕組みを形成し、施策の推進を図ります。進行管理は、環境マネジメントシステムの考え方にに基づき、PDCAサイクルの一連の手续に沿って実施します。



奈良市環境基本計画(改訂版)中間見直し《概要版》平成29年3月



奈良市 環境部 環境政策課
〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1番1号
TEL 0742-34-4591 FAX 0742-36-5466
E-mail:kankyoseisaku@city.nara.lg.jp



表紙写真
「田原稲畑」「朱雀門」「ならまち」
提供：奈良市観光協会